

科目	動物臨床看護学各論Ⅱ（眼科他）		
担当講師 木下あゆみ 実務経験有 動物病院院長 獣医療臨床暦 20年			
開講年次	授業形態	選択/必修	授業時間
動物看護、動物管理学科 1年次後期	講義	必修	30
授業目標 様々な病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な措置。治療に関する基本的な知識を4学ぶ、各々の機能障害をもつ応物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を取得する。 授業概要 血液内分泌疾患及び眼科疾患を中心に学ぶ。			
成績評価の方法 評価の基準は筆記試験による。また本科目受験には出席率が3分の2以上であることが必要。試験は80～100点がA評価、70～79がB評価、60～69までをC評価とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし評価はCとなる。			
教材 ・動物看護コアテキスト 6巻（ファームプレス）P292-359 ・動物看護実習テキスト（インターズー）			
授業計画 毎週水曜日 4限目 15:00～16:30			
回	授業内容		
1	眼科疾患	眼の構造と仕組みを理解する。 眼科診療で行われる検査とその意義について学ぶ。	
2	〃	〃	
3	眼科疾患	眼科の代表的な疾患について理解する。 眼科診療における動物看護師の役割と看護のポイントを理解する。	
4	〃	〃	
5	血液疾患	血液成分の概要を理解する。	
6	〃	〃	
7	血液疾患	血液疾患の特徴、症状を理解する。	
8	〃	〃	
9	内分泌疾患	内分泌疾患の主な疾患名と昭乗についての知識を身につける。	
10	〃	〃	
11	内分泌疾患	内分泌疾患の検査法について知る。 各疾患の看護上のポイントを理解する。	
12	〃	〃	
13	まとめ	復習	
14	〃	〃	

15	感染性疾患	感染症の早期発見・早期治療のための正確な稟告聴取 病気に対する正確な知識（消毒法、院内感染防止）を修得する
16	〃	〃
17	感染性疾患	消耗性疾患は体力温存がポイントであり、症状に合わせた適切な 看護法を修得する。
18	〃	〃
19	寄生虫	寄生虫の診断技術を身につける。
20	〃	〃
21	寄生虫	寄生虫の診断治療薬の特性を理解する。
22	〃	〃
23	担ガン動物	ガンの定義と特徴・病態生理を学ぶ。
24	〃	〃
25	担ガン動物	担癌動物の看護法と動物看護師の役割を知る。
26	〃	〃
27	まとめ	復習
28	〃	〃